

令和5年度病害虫防除指導情報 第3号

作物名：にんにく 病害虫名：さび病

～ さび病の発生多い!! ～

本病蔓延による草勢低下・早期枯凋は、りん球肥大の抑制及び品質低下（割れ玉の発生）につながります。薬剤散布を徹底し、蔓延防止に努めてください。

1 発生状況

- (1) 5月中旬の巡回調査では、津軽地域が全地点で発生が認められ、平年を上回る発生量となっている。また、発生程度「中」の地点も確認されている。
- (2) 県南地域では、発生地点率が平年よりかなり高く、6月中旬の平年と同程度の発生量となっており、前10か年でも最も発生が多くなっている。

表1 巡回調査におけるさび病の発生状況

調査時期	地域	年次	調査 地点数	発生程度別地点率 (%)				発生地 点率(%)	発病株 率(%)	発病度
				甚	多	中	少			
5月中旬	津軽	本年	10	0	0	10.0	90.0	100	31.8	11.0
		平年	16	0	0	8.8	67.0	75.8	27.0	7.7
	県南	本年	28	0	0	0	82.1	82.1	20.2	5.1
		平年	52	0	0.2	1.2	37.9	39.2	8.1	2.1
6月中旬	津軽	本年								
		平年	15	0	9.1	15.9	59.7	84.7	42.8	15.7
	県南	本年								
		平年	51	0	1.6	7.4	56.6	65.6	21.1	7.0

2 防除対策

- (1) 表2に示した薬剤の効果持続期間（散布間隔）を参考に5月中～下旬の防除を徹底する。なお、耐性菌防止の観点からFRACコードを参考に同一系統の薬剤は連用しない。
- (2) 現在、集中病斑が見られるなど発病程度の高いほ場では、本病の蔓延により早期枯れ込みが懸念されることから（写真を参照）、持続効果の高い薬剤を散布間隔を基準より短くして2回程度防除する。
- (3) 薬剤散布は葉裏も薬液が十分に付着するよう散布量を確保して丁寧に行う。

表2 にんにくさび病の防除薬剤

農薬名 (FRACコード)	さび病蔓延期における効果の持続期間		
	21日程度	10-14日程度	7-10日程度
アミスター20フロアブル(11)	○		
アミスターオブティーフロアブル(11・M05)	○		
シグナムWDG(11・7)	○		
オンリーワンフロアブル(3)	○		
ラリー乳剤(3)		○	
ストロビーフロアブル(11)		○(10日程度)	
テーク水和剤(3・M03)			○



集中病斑が見られ発病程度の高い株の外観



過去の多発ほ場(早期枯れ込み)の様相

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

農林水産省「農薬情報」 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>

※ 当情報は青森県農業・就農情報サイト「農ナビ青森」(<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。

《当情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 担当：主任専門員 柳野 利哉

〒030-0113 青森市第二問屋町 4-11-6

TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900 E-mail: toshiya_yanagino@pref.aomori.lg.jp